

【2月講演会:レジメ】

FMC(Fixed & Mobile Convergence) の近未来像=コンテンツ事業者からの提案

- NTTドコモを中心に、モバイルキャリア各社が積極的に展開する『ケータイ動画配信サービス』。 動画コンテンツのプロバイダーも、此れを大きな事業機会の到来と位置づけ、この一年間で作品の投入量を大幅に増大した。
しかし現段階では、有料長尺動画の配信は、ユーザー側が馴染むのに時間が掛かること、ビューアーの使用料負担がプロバイダー側に発生する事などの他、何よりも端末画面サイズに限界があることなどで、市場規模的には電子書籍需要【推定市場シェア10%以下】の1/3に満たない状況と見られている。【推定市場シェア3%以下】
 - 勿論今後のケータイキャリアの基盤高速化の努力と、新型端末の普及などで、動画配信環境は着実に整備され、市場規模も拡大すると見られている。 又その一方で、オンライン側でも、FTTHの進行等で、動画サービス基盤は急速に新しいアプリケーションを実現して行く方向にある。 この2つの流れにより、『オンラインとケータイのサービス融合』、即ちケータイで検索し、動画コンテンツはケータイとPC画面(もしくは今後IPTVも含まれる)両方で視聴する形も、現実的なテーマとなりつつあり、その動きに即した新コンテンツの制作=権利許諾のマルチ化も進みつつある今、ケータイサービスの役割は、より広い視点から論じられる段階に来ている。
- メガコンテンツ・プロバイダーとしての、角川のモバイル戦略の次の一手という観点から、このテーマに触れ、同時に構想の一部を提起したい。